

講演

道路と交通

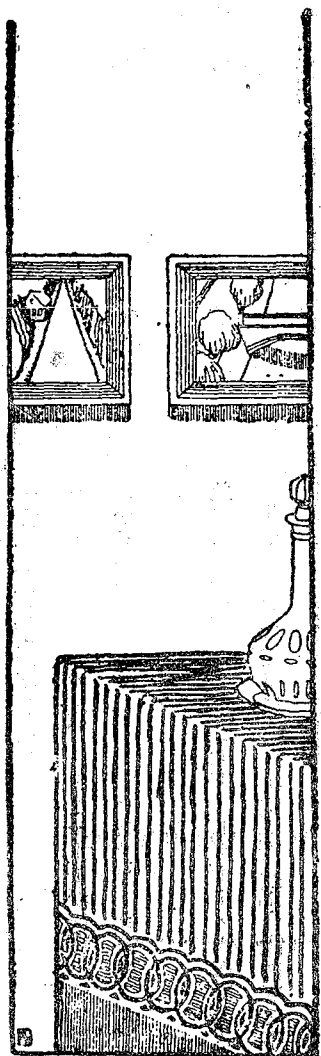
警視廳交通課長 藤岡長敏

「交通整理問題は實に社會國家の重大問題である」ところ

私が申しますれば、或は皆様の中には、何と云ふ我田引水的な誇張をする男だらうと思ひになる方があるかも知れませぬ。しかし私は交通整理問題を他の社會的乃至國家的重大問題に比して、その重要さに於て決して遜色はないと

信じます。

最近社會的に非常な衝動を與へた問題は、例の鬼熊の一件でございますが、熊さんは一體何人の人を殺し、何人の人を傷つけたてございませう。之を白晝しかも大道の真中で人殺を行ふ交通事故に比べますと、とても比較にならない



いのであります。東京のみに於きましても、交通事故に依つて、二日に一人の人が殺され、毎日凡て二十五人の人が傷つけられて居ります、それにも拘らず交通事故であれば又かと云つて、世間の人は一向氣にも留めない様で、あります。

私が最近讀みました書物の中に、アメリカに於ける交通事故のことが書いてありました。それに依ると一九二五年即ち昨年一箇年間に於て、アメリカに於ては交通事故の爲約三萬六千人の死者と、約百十萬人の負傷者を出して居ります。此の他に自動車が壊れたとか、積荷が駄目になつたとか云ふ單純な物件破損に依る損害が、約九億七千萬弗に上つてると云ふことであります。人の生命を金銭に見積ることは不可能でありますが、アメリカの裁判所は、損害賠償の訴訟等に於て、一人の生命を約一萬弗と評價して居りますから、この評價標準に従へば、昨年中の交通事故の爲生命を失つたことに依り、アメリカが被つた損害が三十六億弗に相當するのであります。又負傷にも一生進不具に

なつてしまふ様な重傷があり、僅か一週間か十日で全治してしまふ様な輕傷があつて、一概に云ふ譯には参りませぬが一件平均約五百弗の損害と假定致しますれば、同じく昨年中の交通事故の爲負傷者を出したことに依つて、アメリカが被つた損害は五億五千萬弗になるのであります。之等に先刻申し上げました單純の物件破損に依る損失九億七千萬弗を合せますと、實に五十一億二千萬弗と云ふ莫大な額に達するのであります。

アメリカ合衆國政府の昨年度に於ける豫算總額は、約三十六億弗でありましたから、之を昨年一箇年間に於ける交通事故に依る損害と比較すれば、約その六割にしか當らないのであります。又この一箇年間に於ける交通事故に依る死傷者の數及び財産的損失額は、此の國が斯の世界大戰に参加した爲拂つた犠牲より遙に多いと云ふのでありますから驚くの外はありませぬ。それでアメリカに於きましても National Defense Association 即ち國防協會と云ふものが組織せられました。此戰爭よりも怖るべき國內の慘害を豫

防し、以て國力を蓄へ來るべき國難に處する準備をするこ
とになつたと云ふことであります。

私は日本全國の統計を持つて居りませぬから、東京のみ
に就いて申し上げるのでありますが、昨年一箇年間に於け
る交通事故總件数は、一萬五千五百六十七件でありまして
内百九十二名の死亡者と九千二百七十四名の負傷者を出し
て居ります。之をアメリカ流に一人の生命を一萬圓、負傷
一件を五百圓と見積りますと。昨年中に於ける交通事故の
爲、死傷者を出したことに依つて被つた損害は、六百五十
五萬七千圓となるのであります。之に單純な物件破損に依
る損失二十七萬四千圓を加へると、六百八十三萬一千圓と
云ふ額に上るのであります。此數字は昨年一箇年に於て東
京市民が交通事故の爲、直接被つた損害の額を示すのであ
りますが、交通事故に依つて失ふ利益即ち所謂消極的、損
害はどれ程あるか知れませぬ。今假りに消極的損害を積極
的損害と略同額であると致しますれば、東京市民は交通事
故の爲一箇年に約一千四百萬圓の損害を直接間接に被つて

ると云ふことになるのであります。此莫大な浪費を救済
し、併て交通の圓滑を計る交通整理を、社會國家の重大問
題であると稱するに何の不思議がありませんか。

交通整理と申しますと、交通の安全を保持し、その圓滑
を増進するあらゆる手段を云ふのでありますから、單に事
故の防止のみがその使命の全部ではないのであります。し
かし事故に依る損害は前に申しました様に巨額に達するの
でありますから、先づ第一に此方面から申し上げる必要
があらうと存じます。ところでこの夥しい事故は一體どう
して發生するかと申しますに、私は之を『お互の不注意に
基く』と云つて憚らないであります。私共は毎日數十件の
事故を取扱つて居りますが、そのうち不可抗力に依るもの
又は故意に基くものは殆ど無いと云つて好いのでありま
す。果して然らば、殘る所の過失即ち不注意に依るものば
かりでなければなりません。そう致しますと、不注意がな
くなれば交通事故は自然消滅するのであります。交通
事故を防止しやうとすれば、此不注意を無くするより他は

ないのであります。警視廳に於きましては、約六百人の交通事務巡查を使用して、交通整理に當らせて居りますが、しかし如何に嚴重な取締を執行致しましても、通行者の總てを常に監視圈内に入れて置くこと云ふことは、事實上不可能なことであります。故に之はどうしても各人の自制心と

徳義心とに訴へて、自分で自分を注意する様にし、且つ他人に迷惑を及さない様にして貰はねばならないのであります。實際上に於きましても、交通巡查の目の前で事故が発生する様なことは、殆どないのでありますから、警察方のみに依つて交通事故を防止しやうとすれば、日本全國の軍隊の總動員して、交通整理を行はせても猶十分ではありま

すまい。曾てバリーが交通整理問題に行き詰つたとき、當時交通整理の最もうまく行はれてゐると稱せられてゐたロンドンに、多數の警察官を見學に派遣したことがありました。そのときロンドンの警視總監は「バリーから百名や二百名の警察官を見學によこしたところでは何の役にも立たない。バ

リー市民を全部見學によこさなければ駄目だ」と云つたさうであります。この一言はいかにも此邊の消息を巧に言ひ表はし得たものであると思ひます。

此頃は交通事故が非常に多くなつたと云つて、警察を責める人が澤山ございますが、何も警察で事故を起した覺は毛頭無いのでありますから、之は丁度「俺が懷中に入れてあつた藁口を落したぢやないか」と云つて、警察に怒鳴り込むのと同様であります。

繰り返へして申しますが、交通事故は各人の自制心と徳義心とに依つて防止するより他に道がないのであります。

荀子が申しました「人何を以て能く群す。曰く義あればなり」と。共同生活の安全の樞は、この「義」一字あるのみであります。自己自から注意し、他人に迷惑を與へない様にすると云ふことは、荀子の言ふ義に他ならないのであります。之がやがて「自治の精神」であるのであります。或る人が私に「或地方の自治の發達の程度を知らうと思へば、その地の道路竝に交通の状態を見れば一番よくわか

る」と云つて居りました。私は至言で、あると思つて居ります。

交通事故は一に各人の自制心と徳義心との缺陷に依つて發生するのでありますが、道路の状態が良くない爲、著しく事故の發生を助成する場合がございます。斯る場合にはその責任の一半は當然道路管理者に於て之を負はねばなりません。

現に東京に於きましても、御存じの通り京橋より日本橋を経て須田町に至るあの交通の頻繁な道路に於きまして、電車の軌道が十三尺ばかりも西側即ち三越呉服店側に寄つて居ります。爲に西側の車道上に於て發生する事故は、東側の車道上に於て發生する事故の約倍數を算へるのであります。

私の聞いて居る所に依りますと、當時の總理大臣であつた某將軍は、軍隊の通過に邪魔になるから、電車軌道は道路の一侧に片寄せて置けと仰つた爲、あゝしたものが出来上つたのだと云ふことであります。道路上の交通機關が皆

電車よりも速度の遅いものであつて、市内電車と雖も一種の専用軌道のやうに見られてゐた頃は、或はそれでも好かつたかも知れませぬが、自動車と云ふものが疾驅する都大路が、依然そのまゝに残されてゐると云ふことは、定めて地下の將軍も寝ざめの悪いことゝ存じます。

この他道路の設計が拙いた爲、又は當然改造せらるべき道路が、その儘になつてゐる爲、交通事故發生の原因にならないとしても、著しく混雜を來し交通の圓滑を害する様な場合が少くないのであります。例へば自動車と云ふ様なものを夢想だにしなかつた時代に造られた道路であつて、しかも精々二階造りの建物が軒を並べてゐた道路を、いつまでもそのまゝに放置して置いた爲、そこに八階檜りの鐵筋コンクリートのビルディングが楯比し、自動車が頻繁に往來する様になつたと假定致しませう。どうしてその道路が狹隘を感ぜずに居られませう。しかもそうなつてしまつた上は、もはや道路を擴築しやうとしても容易ではありませぬ。この點に關してアメリカの或る技師が次の様に申し

て居ります。『吾々は三層造りの建築に對する計畫の道路に面して、四十層の建物を建て、しまつた』と。アメリカに於ける交通問題に關する點も亦、此點にあるのださうでございます。

『街路は都市の血管である』と云ふことをよく申します。

人體に於ける血管はそれを通じて人の生存に必要な營養が行はれるのでありまして、都市に於ける街路は、それを通じてその都市の繁榮に缺く可からざる物資原料及び人の輸送が行はれるのであります。『血の環りの好い人』と云へば活力の旺盛な人と云ふのであつて、『殷賑なる都市』とは內的外的に交通の頻繁な都市を云ふのであります。故に人體の營養が十分でなければ、その人は衰弱せざるを得ないと同様、都市の交通の圓滑が害せられれば、その都市は衰微に赴く運命を免れることが出来ませぬ。

自分の任んでゐる土地が繁榮して、その利益を享けない人はありますまい。土地が繁榮するか否かは、前にも申しました通り一に交通の便否に懸つてゐるのでありますか

ら、土地の繁榮の爲、やがては自己及び子孫の繁榮の爲、道路を愛護し極度にその能率を發揮せしめ、交通の便益を享受する様にしなければなりません。

(本會援助茨城縣道路
愛護會に於ける講演)

道路愛護の歌

○世の中次第に開らけ行き

諸車の往來繁くなる

無暗に道ばた塞げたり

子供を道で遊ばすな

○道を行く時は左がは歩め

●●がすりや御互ひ共なんぎ

皆さん御互ひ氣を着けて

交通事故を防ぎませう